

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 029	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 肥育牛の残飼(乾草)のリサイクル	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 肥育経営では、導入初期の肥育牛に対して腹作りの手法として乾牧草の給与が行われる。しかし、近年は乾牧草の価格が高騰しているため、少しでも無駄なく給与することが望まれている。 そこで、肥育経営における乾牧草の効果的な給与のため、乾牧草を選び食べさせない給与技術や、食べ残した乾牧草の再給与(リサイクル)の手法について研究・提案していただきたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	乾牧草を選び食べさせない給与技術は、現時点ではTMR等混合給与する手法しか情報がありません。引き続き情報収集に努めたいと思います。 また、乳酸菌副資材を添加することで稲わらサイレージの栄養価が向上するという報告 ¹⁾ もあることから、現地調査をする場合には協力していききたいと思います。		
1) 日本草地学会誌 第61巻 別号、2015			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			